



伊場 哲也 議員



学校教育に関して

問 登下校時の通学路の見守りボランティアについて、絶対数が不足していると思うが、予算措置を講じて人員を増やす必要があるのでは。

答 本年度は110名の方に見守りボランティアとして協力してもらっている。予算的な面も勘案し、今後さらなる拡充を図るよう努めていく。

問 市内小中学校で朝の時間帯にモジュール学習を取り入れている学校はあるか。

※モジュール学習
通常45分の授業を15分ごとの3に分ける短時間学習

答 今年度は小学校で2校、中学校で2校取り入れている。

問 ICTを活用した教育を進める上で、問題点や現場からの要望はあるか。

答 問題点は活用内容に学校間や教師間で差があること。現場の教員からは、ICT機器の

操作方法やアプリの使い方を学びたいという声が多い。

問 教科書がタブレットで見られる「デジタル教科書」の導入について、市の見解は。

答 国の実証事業により、今年度すべての学校に英語のデジタル教科書を導入している。この実証事業の状況や各校での使用実績を参考に、メリット・デメリットを整理して導入を検討する。



問 市長はまちづくり方針の中、英語教育の充実を掲げているが、英語教育の何を充実させたいと考えているのか。

答 英語教育を充実させるため、ストップ少子化大作戦の一つである「英語教育パワーアッププロジェクト」を推進していく。小学校入学時の人口流出が多いという現状を踏まえ、子育て世代に旭市の英語教育の魅力を伝えることにより、人口流出を抑え、転入者を増やすことを狙いとしている。

地方創生臨時交付金の活用は

問 政府の総合緊急対策で地方創生臨時交付金が拡充され、コロナ禍における原油価格・物価高騰対応分が創設されたが、どのような事業に充てる予定か。

答 この目的として、コロナ禍において原油価格や電気・ガス料金を含む物価高騰の影響を受けた生活者や事業者の負担軽減である旨が総務省より通知されており、現在検討を重ねている。

通学路の安全対策を

問 あさひ中央橋から国道126号をまたぐ南北線の北側道路開通に伴い、車の交通量が急激に増えたことで新たな危険箇所が増えた。早急な通学路の総点検安全対策をするべきでは。

答 本線へ進入する側の市道のため、停止線の手前へ交差点注意の路面標示やカラー舗装などを設置している。横断歩道の設置は、

今後の交通量の増加等を踏まえ、所管する旭警察署と協議を進める。

問 イオンタウン旭入口の交差点は、優先道路が分かりにくいいため危険との声があるが、信号機の設定はできないか。

答 現在、旭警察署に要望している。



イオンタウン旭のオープンに伴い交通量が増加

大人用紙おむつを購入券で

問 大人用紙おむつ支給について、現在は現物支給をしているが、購入券で支給することはできないか。

答 現在は年に3回、4か月分をまとめて業者から受給者宅に届けている。現物給付の紙おむつは入札により購入しており、購入費が抑えられるため、購入券で利用するより多くの枚数を給付することが可能となるので、現時点では現物給付で考えている。



伊藤 房代 議員

